

様式第2（第5条関係）

令和2・3年度期第4回犬山市青少年問題協議会・犬山市青少年センター 運営協議会 会議録

- 1 附属機関の名称 犬山市青少年問題協議会及び犬山市青少年センター運営協議会
- 2 開催日時 令和2年12月23日(水)午前10時～午前11時30分
- 3 開催場所 犬山市役所 201会議室
- 4 出席者した者の氏名
 - (1) 委員：佐々由高、松本里美、板津克哉、松井淳司、畑竜介、渡辺孝春、田島奈生美、深見公子、沖藤妙子、南谷亜紀（10名／11名中）
 - (2) 執行機関：文化スポーツ課課長補佐古田隆行、同課青少年センター所長井戸則夫、同所相談員角村利恵

5 議題

- (1) 第3回犬山市青少年健全育成市民会議の報告について
- (2) 青少年健全育成市民会議会報第39号の発行について
- (3) 青少年健全育成講演会について
- (4) 青少年センターの運営について
- (5) 男女混合名簿の利用状況について
- (6) 3分間スピーチ
- (7) 連絡・報告事項

6 傍聴人の数 0人

7 内容

(1) 会長あいさつ

犬山市においても新型コロナウイルスの感染者が増えてきている。お互い十分気を付けて新しい年を迎えたい。

(2) 報告

①第3回犬山市青少年健全育成市民会議の報告について

同会議の議事録に基づき渡辺委員が報告した。主な内容は会報の発行について、おあしす運動の実施につて、青少年健全育成講演会についてであった。

②青少年健全育成市民会議会報おあしす第39号の発行について

12月15日号の市広報とともに市内全町内に回覧手続きを完了した。今回の主な内容は、おあしす（あいさつ）運動の標語審査の結果とコロナ禍における関係団体の活動紹介などである。

(3) 協議

①青少年健全育成講演会「いのちと性を考える」について

ア 受講者の感想

○深見委員

- ・高校で講演された時とは使う言葉で表現するなど配慮がなされていた。
- ・性の多様性について再認識できた。二回聞くことで、より理解ができた。
- ・内容が多く、限られた時間で伝えようと講師が早口になっていた。生徒が十分に聞き取れたか心配であるが、一つでも心の中に残るものがあれば良いと思う。
- ・中学生の実態を事前アンケートで掴んでから話されたのはよい。

○沖藤委員

- ・淡々とした口調で話されたので、生徒が余計な想像をせず素直に聞くことがで

きた。

- ・LGBT、性の光と影、性は命に繋がることなどがよく伝わる話であった。
- ・小学校の段階から当たり前のこととして伝えることもよいと思う。
- ・男女両方に新しい命に対して責任がある。各学校で行われているいのちの教育と上手に関連させたい。

○アンケート調査から(事務局より)

- ・コロナウイルス感染予防のため一般市民の参加はなかったが、青少年育成関係者、教員からは大変高い評価を受けた。参加者の声は次のようなものであった。
- ・LGBT、身体的性、心の性、恋愛の性、表現する性など様々な性があることが分かりやすく伝わった。性の違いを受け入れこれからの社会を担っていく生徒に育ててほしいと思った。
- ・望まない妊娠・出産を防ぐために、生徒に分かりやすく説明していただきありがたかった。
- ・性について興味を持ち始める中学生にとってちょうど良い話であると感じた。
- ・指導しにくい内容にまで踏み込んでいただきとても助った。
- ・性について何となく匂わせるのではなく、真正面から話すことが大切だと思った。
- ・いろいろな性のかたちがあることを中学生の時期から学習することは、いろいろな人の生きやすさにつながると感じた。

イ 「体を大切に作る心を育む」性教育について

～今期協議テーマ(大テーマ「生きる」)に関連して～

- ・スマホの指導も中学校では遅すぎた。先入観がない段階から正しい知識を提供していくことは大切だ。
- ・孫からどうして結婚したのと聞かれた。子どもには幼いころから正しく伝えるべきだと思った。
- ・「生きる」という大テーマから、切口として「性」を取り上げ、「命の大切さ」につなげたい。
- ・「男女分け隔てなく」とよく言われる。確かに小学校低学年では、体育の着替えもそのようにしている。しかし高学年になるとそうはいかない。男女の意識分けをどうするかは悩ましい。
- ・名古屋市で開催されたあるセミナーに参加した。性教育の一環としてコンドームも配布していた。ドイツなど欧米では、学校で避妊具の説明まで学習している。
- ・宗教など社会的背景が異なるため、日本の学校にそのまま導入することには難がある。日本では、学習指導要領に示された範囲での指導が求められる。
- ・インターネットで子どもは情報を得ている。早い段階で正確な情報を伝えることが必要である。
- ・命を大切にするとする立場から指導したい。

ウ 次年度の青少年健全育成講演会について

今年度と同様の演題で、他の中学校、高等学校で実施することとなった。

②青少年センターの運営について

ア 冬期県民運動のパトロール(合同街頭指導)の中止について

今期は、コロナウイルス感染予防ため、冬期県民運動の合同街頭指導を中止し、個人で地域の子どもたちを見守ることとなった。

イ SNSを利用したの悩み相談について

一つの自治体でSNSを活用した悩み相談の運営は、コストパフォーマンスの点から困難である。県(国)単位でのSNSを利用した悩み相談が開設されているので、今後、会報等で広く紹介していく。

③男女混合名簿の利用状況について

前回の研修会にて県内の利用状況が資料として出されていたが、この地の状況は分からなかった。犬山市・扶桑町の生徒指導担当者の集まりに於いて、アンケート調査を行った。その結果県全体の利用率よりは、この地域は利用率が高いことが分かった。さらに次年度から導入予定の学校が2校ある。

④今後の研修について

- ・今回の青少年健全育成講演会の話全員が聞いてみないと、その内容について議論できないので、講師を招聘して話を聞きたい。
- ・NPO法人アスタはLGBTなどマイノリティへの理解不足から起こる差別やいじめを防ぐ啓発活動をしており、有意義な話が聞ける。
- ・様々な悩みや思いを持っている子どもや若者の生の声を聴いてみたい。

(4) 3分間スピーチ (松本委員)

多文化共生の取り組みとして、最近「いぬやまコミュニティ農園」を始めた。高齢者生きがい活動促進事業として国庫補助を受けての活動である。

楽田地区の1700平方メートルの土地を借りて交錯している。広い土地なので耕運機も購入した。本来は高齢者を対象にした事業ではあるが、地域の子どもたちが生き生きと活動している。農園を持つことで新しいコミュニケーションの場となっている。今まで見たこともなかったさまざまな人との出会いの場になっている。外国人の人は珍しい野菜を育てたりしている。土の魅力を感じる今日この頃である。

(5) その他 (連絡・報告事項)

- ・次回の3分間スピーチ(松井委員)
- ・本会議の青少年健全育成市民会議での報告者について (渡辺委員)
- ・次回開催日時：2月25日(木)午前10時から午前11時30分まで
会場：市役所 301会議室

令和3年1月 日

上記に相違ないことを確認する。

(署名)

(署名)